（５） ガーベラ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 疫病 *Phytophthora nicotianae*	1.連作を避け、圃場の衛生をよくする。 2.排水をよくし、滞水しないようにする。 3.高うねとし、植える位置を高くする。	定植時又は生育期	4	リドミル粒剤２
		発病初期	28 49・40	プレビクールＮ液剤 (混)オロンディスウルトラＳＣ
2 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.葉が込み合わないように、下葉かきをして通風をよくする。 2.被害株は早期に抜き取って処分する。 3.咲き終わった花梗は取り除いて圃場外で処分する。 4.過湿条件が続く時期は加温を行って圃場の湿度を下げる。	発病初期	－	サンヨール
3 ミカンキイロアザミウマ	1.外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウスの開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 4.圃場周辺の雑草処理を徹底する。 5.侵入防止対策を実施しているハウスでは、青色粘着トラップを吊すことにより、密度を下げることができる。 6.本種により、トマト黄化えそウィルス（ＴＳＷＶ）が伝搬される場合があるので、感染株を発見ししだい抜き取り、圃場外に持ち出し、処分する。	発生初期	1B 1B 15	オルトラン粒剤 トクチオン乳剤 カスケード乳剤
4 マメハモグリバエ	1.外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウスの開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 8.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し(夏場の晴天日であれば１日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発生初期の防除を徹底する。	発生初期	1B 15 17	カルホス乳剤 カスケード乳剤 トリガード液剤
5 オンシツコナジラミ	1.苗による持込みに注意する。 2.ハウスの開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.栽培休止期に施設を密封し、ハウス内温度が50℃にまで達すれば、コナジラミ類を死滅させることができる。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アプロード水和剤はオンシツコナジラミ幼虫に登録がある。	発生初期	16	アプロード水和剤